



新年のあいさつ

理事長 東 靖人



新年あけましておめでとうございます。

昨年の令和元年は慌ただしく過ぎ、もう2年がめぐってきました。
今年はオリンピックイヤーで大変盛り上がっています。

さて当院は今年、開設50周年を迎えます。当院の前身となる精神科の病院が北条にあったのですが、今は閉院しています。飾磨区三宅の地にある姫路中央病院は、今年が50年目となります。特別なセレモニーは考えていませんが、私は祖父母、父母達が当院を設立して、いろいろと努力している様をみて育ちましたので、ああもう半世紀たったのか、と感慨深いものがあります。

設立時は道路の整備が出来ておらず、田んぼの中にこつ然と病院が出現した状態でした。近隣の大きな道路は飾磨街道だけで、そこから細い道を通って病院にたどり着く状態であったそうです。雨が降ると玄関は泥まみれになるので、院内は上履きが使われていました。それでも、赴任された先生方の奮闘努力で診療が行われ、沢山の方々にご受診いただき順調に発展して参りました。腹部の外科と、脳神経外科の病院として認知していただく事ができました。そして地域の方々から、ご家族や知人の方々が当院で治療を受け、感謝される事も今まで多くありました。医療自体も右肩上がり発展していく事が出来た時期だったと思いますが、何よりも必要な医療を地域の皆様にお届けする事が出来たので発展があったのだと思います。例えば当院開設時には脳神経外科の手術が出来る病院は、姫路市のみならず、この地域には当院しかありませんでした。

開院時と現在では、随分と医療を取り巻く状況は変わっています。なによりも医療費は全体としては増加傾向ですが、診療報酬はマイナス改訂が決められています。働き方改革による勤務時間制限、地域包括ケアの実践、地域医療計画の中での当院の立ち位置、考えないといけない事は山積みです。

私は王道はない、と思っています。病院は医療を粛々と継続しておこなっていく事がミッションです。でも旧態依然とした提供ではなく、時代の変化への対応が必要です。医療以外のいろいろなオプションを取り揃えるのではなく、良質な医療を適切なタイミングで提供して地域の皆様にご利用いただく事が結果として当院を発展させていく事に繋がると信じています。そのためには今のニーズが何か、そして当院がそれについて何が出来るのかを判断し、自分自身を変化させていく事が大切です。

カメレオン、というとあまり印象が良くないかも知れませんが、状況に柔軟に対応して自分を変えていける能力がある動物です。カメレオンのような能力を身につけて、今あなたに必要な病院へ、を實踐してゆきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



PET健診センターのご案内

院長・PET検診センター長 金丸 太一



明けましておめでとうございます。

旧年中は当院ならびに附属クリニックをご愛顧いただきありがとうございました。

さて、新年のご挨拶として当院PET健診センターをご紹介させていただきます。

昨年末令和2年度の政府予算構成案が決定しました。社会保障費用は約35兆円です。高齢化に伴い病院受診や施設を利用する人が増えていること、医療費の中でもとくに薬剤の高額化が大きな要因となっています。ひとりひとりが、できるだけ病気にならないよう、病気になってもできるだけ早くみつけて医療費の負担を少なくするよう心掛ける必要があります。つまり日頃から健康に留意することが重要です。

「けんしん」は漢字で書くと「健診」と「検診」の2種類があります。健診は健康診断を意味する漢字で、健康であるか否かを確かめるための検査で、雇入れ健診や事業者健診などが含まれます。一方検診は生活習慣病やそれに派生しておこる心筋梗塞や脳梗塞、さらに癌などを早期に発見するために行われる検査です。当院ではこれらを附属のクリニック2階、PET健診センターで行っております。

まず当院の「人間ドック」についてお話します。昨年4月から11月末で約600名の方が受診されています。基本的な身体計測測定後、上部・下部内視鏡、超音波検査、希望によりCT、MRIなど行います。原則として1日で行いますが下部内視鏡を行う場合には2日にわたります。検査時点での生活習慣病の程度、消化管病変の有無、癌や心筋梗塞、脳梗塞発生の危険性などがわかります。説明時に保健師も同席しており、生活習慣病改善のためのアドバイスも聞くことができます。

次に「脳ドック」についてです。当院脳神経外科中村医師が担当しております。外来との兼ね合いもあり多くの方の受け入れは困難ですが、基本的な身体計測測定、MRI、超音波による頸動脈エコー検査などを行います。動脈硬化症の程度や脳動脈瘤、脳梗塞の有無などがわかります。さらに心理士によるテストも行われ高次機能の評価も受けられます。

「PET」はご承知のように、癌に特化した検査です。放射線ラベルしたブドウ糖を静脈内に注射します。ヒトの細胞はブドウ糖を取りこみエネルギーに変えて生きていますが癌細胞は正常の細胞に比べて3~8倍のブドウ糖を消費するので、PET装置で撮影することにより、ブドウ糖を多く取り込んだ癌と正常組織の濃度差としてわかる仕組みです。被爆量は通常のCT検査の約1/3程度(2.2msv)と少なく半減期も短いですが、内部被爆のため、その日は小さなお子様との接触は控えていただきます。PETの最大の欠点は費用が他の検診と比べて高いことです。理由は先に述べたブドウ糖試薬が高いためですが、ベーシックプランも用意して可能な限り受けやすい価格に設定しております。今年にはPET検査を受けてくださる方を倍増させたいと考えております。気軽にセンター窓口までご相談ください。

最後に「企業健診」について述べます。おかげさまで月150から200件の雇入れ健診や定期健診を受けています。最近では、仕事での車の運転中や作業中に不意に意識消失や心機能異常をきたすことが社会現象となっており、リスク回避のための脳や心臓に限定して健診を受ける方も多くなりました。企業単位とはなりませんが窓口にてご相談ください。

1億総活躍社会の時代を迎えました。

リニューアルしたPET検診センターパンフレットも作成し、皆様の受診をお待ちしております。

健康で人生を長生きするためにも検診をお受けください。

今年もよろしく願い申し上げます。

新任医師 紹介

麻酔科

うちだ ともひさ
打田 智久



所属 麻酔科

専門領域 手術麻酔(特に区域麻酔)
ペインクリニック

所属学会 日本麻酔科学会・日本区域麻酔学会
日本臨床麻酔学会・日本ペインクリニック学会

趣味・特技 植物をそだてること(食べられるもの)

着任に あたったの抱負

安全な麻酔はすでに当たり前のこと、できるだけ患者さんの苦痛を取り除きたい
と思っております。
同様にペインクリニックでも、できるだけ患者さんの苦痛を取り除きたいと思
っております。
何卒よろしくお願い致します。

IBD教室を開催しました

今回は姫路炎症性疾患患者会代表の柳井ときおさんが「IBD患者が知っておきたいこと」と題した講演を行いました。講演では、「辛い闘病生活の中で、時には治療をやめてしまいたくなる。そんな気持ちに寄り添い、患者さん、ご家族さん、患者さん同士も支え合える。」と、当院のIBDチームの治療のあり方をお話してくださいました。他にも、栄養士を招いての料理講習や、IBD患者さんの暮らし方アドバイスなどのお話もあり、とても充実した時間となりました。

第31回市民健康増進講座

～てんかんと認知症について～

8月31日に当院にて第31回市民公開健康増進講座を開催し、たくさんの方にお越しいただきました。近年高齢化により、高齢者のてんかん症状の患者数が増加しています。てんかん症状も認知症と似ているため、間違われやすいと言われております。皆さまご自身の症状と照らし合わせながら、熱心に耳を傾けておられました。

理事長／神経内科医師
認知症疾患医療センター長 東靖人

第15回 オープンホスピタル開催しました

令和元年10月27日(日)に毎年恒例となりましたオープンホスピタルを開催しました。今年は、市民健康増進講座として整形外科の安藤義博医師による「手の痛みとしびれの話」や認知症看護認定看護師である稲田ゆかり看護師による「認知症とうまくつき合う方法」の2つのテーマを講演しました。

天気も良く、たくさんの方々にお越し頂き大盛況のなか終わることができました。

今後も地域に貢献できる病院であるよう職員一同努力してまいりますのでよろしくお願い致します。



「認知症疾患医療センター」の活動紹介

認知症疾患医療センターは、認知症施策推進総合戦略として早期診断・早期対応のための体制整備の事業の1つとなっています。兵庫県指定では初めに2009年に4か所設置され、現在は17か所に設置されています。

当院は2018年10月より指定されました。

認知症疾患医療センターとしての一番の要は医療と介護をつなぐ中心となることだと思います。

具体的な役割として、

- ・鑑別診断とそれに基づく初期対応
 - ・周辺症状と身体合併症への急性期対応
 - ・専門医療相談
 - ・研修会の開催
 - ・認知症の普及、情報発信
- となっています。



当院の2018年10月から2019年9月までの実績としては、神経内科・物忘れ外来にて専門医による認知症治療を行っており、認知症に関する外来件数は500～700件/月でそのうち認知症の鑑別診断は、20～60件/月となっています。専門医療相談については、地域医療連携室が窓口となっており、看護師、MSWが対応しています。認知症相談の件数は、30～90件/月となっています。

その他にも、認知症の普及や情報発信のため、地域の方や認知症に係る医療従事者に向けた研修やフォーラムを開催しています。院内では、認知症ケアチームを結成し、病棟ラウンドにより病棟看護師と連携し、よりよい認知症看護が提供できるように実践、指導を行っています。

地域のみなさまに当院の活動が周知され、認知症で困ったことがあったら、姫路中央病院を思い出し、相談してみようと思っただけできるようになれば幸いです。

認知症疾患医療センター長 東医師を筆頭に、スタッフ一同で取り組んでいきたいと思っています。

認知症に関する相談、質問、面談、要望等あれば、いつでもご連絡ください。



認知症看護認定看護師 稲田ゆかり